

(様式5)

平成29年度自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立泊小学校

校長名 倉長 孝男 印

1. 学校の教育目標

豊かな心と確かな学力を持ち、ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓き、たくましく生きる児童の育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成

- 学習のきまりを共通理解し、学習規律の確立に取り組む。
- 単元づくりや学習過程を創意工夫し、授業改善に取り組み、言語活動の充実を図る。
- ペア学習やグループ学習や情報機器の効果的な活用方法を工夫する。
- 校内授業研究会を充実し、授業力の向上を図る。
- 少人数指導を生かし、個に応じた学習指導を進め、基礎学力の定着を図る。
- 外国語活動を推進し、外国語への興味・関心を高める指導に取り組む。
- 家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣化を図る。
- 図書館の活用を推進するとともに、読書の習慣化を図る。

(2) 潮風の中でたくましく生きる心と体の育成

- 基本的な生活習慣の大切さについて教育活動全般を通して適宜指導する。
- 道徳教育、人権教育、特別支援教育を推進し、思いやり豊かな心を育成する。
- より良い言葉使いのあり方については重点的に指導する。
- 潮風タイム（業間運動）を活用し、目標を持ちながら体力の向上に取り組む。
- 食育を推進し、健康な体づくりに関心をもたせる。

(3) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり

- 総合的な学習の時間を活用し、体験的な学習活動を積極的に取り入れる。
- 地域の施設や外部人材を活用し、特色のある教育活動とふるさと教育を推進する。
- 学校だより、学級だよりを創意工夫し、積極的に情報を発信する。
- ホームページを活用し、旬な情報を発信する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由
(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成 ・校内授業研究会の充実と個々の授業力の向上 ・研究会への積極的な参加と教職員への還元 ・学習規律の確立 ・個に応じた学習指導と基礎学力の定着 ・授業改善と言語活動の充実 ・ペア学習やグループ学習や情報機器の活用 ・外国語を話す力の向上 ・家庭学習の手引きの活用と家庭学習ががんばり週間の取り組み ・図書館の活用と読書の習慣化	B	【 成 果 】 ・校内授業研を通して、どの学級も算数科学習の基本的な学習過程が定着した。 ・研究発表大会に向けて算数科を中心に研究を積み重ね、めざす授業の共通理解が深まり、授業力が向上した。 ・算数の学習で、説明する力を伸ばすことができた。図や言葉でなんとか友だちに伝えようとするようになった。 ・学習規律が定着し、話し合い高め合う学習のスタイルが当たり前となってきた。 ・ペア学習やグループ学習を、教師が促さなくても進んで行えるようになった。 ・自分の考えを伝えようとする子どもの姿が多くなった。自主性も段々と高まってきているように感じる。 ・外国語活動の研修に参加し、来年度から外国語の授業で意識すべきことを確認できた。 【 課 題 】 ・授業の中で思考力を深める場面をつくることと、ねらいに沿った発問の工夫が課題である。 ・学習に課題のある児童の個々の課題を把握し、基礎学力をつける取組は、まだまだ工夫が必要だと感じる。 ・ペア学習やグループ学習が積極的にできるようになった反面、自力で解決するという意識を強く意識させられなかった。 ・話を最後まで聞き取る力が十分でない児童がいる。 ・話を聞くと、話すときの相手意識が弱い。 ・読書への関心が薄い子の意識を変えることができなかった。本を持ち帰って読む習慣が身についている児童とついていない児童の差が大きい。
(2) 潮風の中でたくましく生きる心と体の育成 ・基本的な生活習慣の大切さについては、あらゆる場면을捉えて適宜指導する。	B	【 成 果 】 ・生活習慣アンケートで自分の生活を振り返ることで、児童自身も「早寝早起き朝ごはん」を意識できるようになったと感じる。 ・あったか言葉を使おうという意識が、児童にも浸透してきたと感じる。集会活動などの、全校での活動場面であたたかい言葉かけが多く見られるようになった。

・道徳教育、人権教育、特別支援教育を推進し、自他を大切にし、思いやり豊かな心を育成する。 ・良好な人間関係を築くために欠かせない言葉づかいの指導については重点的に指導する。 ・潮風タイム（業間運動）を活用し、自己目標を持ちながら体力の向上に取り組ませる。 ・食育を推進し、健康な体づくりに関心を持たせる。	朝の職員室へのあいさつをいろいろな学年が続けてくれていて良いと思う。2学期に引き続き、言葉づかいは改善されているように感じる。 ・授業や生活で「あったか言葉」を使おうとする児童が増えた。クラス全体で良い雰囲気を作っていく環境が生まれてきた。 ・以前より優しい言葉で注意する児童が増えてきた。 ・基礎体力の向上をめざし、潮風タイムの時間に各学年で目標を設定してマラソンを行い、年2回のマラソン大会に意欲的に取り組むことができた。対外的な大会に多くの児童が参加することができた。また、天候に応じて「のびっこ体操」を行い、柔軟性や体幹、バランス感覚の向上をめざすことができた。昨年度の体力テストの結果と比較すると、数値的にも柔軟性の向上がみられた。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みについて、アンケートで実態をつかむとともに、意識づけを図った。 ・食育に関する授業を各学年で展開され、興味関心が高まったと感じる。 ・地域とのつながりが感じられる給食を大切にすることができた。給食に使われる鳥取県の食材を紹介したり、給食週間の取り組みとして、給食委員会の児童が日本各地や鳥取県のおいしいものを調べ、発表することができた。全校児童がランチルームで食べることで、毎月2回の学校栄養主任による指導も充実していた。児童同士が関わり合う活動をすることで、他学年との交流もみられた。 【 課 題 】 ・普段の生活の中で、もっと友達に対して思いやりのある言葉づかいができるようになってほしい。教員のいるところといないところで、言葉づかいに差がある。 ・大人が見ていない所で言葉づかいが悪くなったりきまりを守らなかつたりする児童がいる。 ・自分で善悪の判断をせず、発言力の強い児童に同調してしまう児童がいるのが気になる。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」が良いことは子ども達はちゃんと分かっているが、実行するのは難しいことがアンケート結果に表れていた。どのようにして家庭の協力を得ていくかが課題。
--	---

(様式5)

(3) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり ○総合的な学習の時間を活用し、体験的な学習活動を積極的に取り入れる。 ○地域の施設や外部人材を活用し、特色のある教育活動とふるさと教育を推進する。 ○学校だより、学級だよりを創意工夫し、積極的に情報を発信する。 ○ホームページを活用し、旬な情報を発信する。	B	【 成 果 】 ・水産教室、グラウンドゴルフなどが本年度も実施できて、良かった。土曜授業との関連ではあったが、本年度は外部人材を活用した教育活動が充実していた。 ・グラウンド・ゴルフクラブでは、協会の方をゲストティーチャーとしてお招きし、毎回手厚く指導をしていただいた。それによって子ども達も上達し、感謝の気持ちも持って活動していた。 ・地域の方々に協力していただくことで、多くの貴重な体験をさせていただくことができ、地域に対する興味・関心を高めることができた。 ・学校だより、ホームページ、学級だよりなどでの情報発信が効果的になされていた。 ・泊小学校を紹介するために取り組んだ6年生の新聞作成の活動がとてもよかった。 【 課 題 】 ・各学年の総合的な学習の時間でどのような力を子どもに付けさせ、どのような活動に取り組むのか整理をする必要がある。もう少し、子どもからの考えや疑問をもとにした活動を取り入れてもよいと思う。 ・体験的な活動を取り入れることはできたが、考えをまとめて表現することが不十分だった。 ・食育ホームページの充実。
---	---	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	「わかる授業の創造と確かな学力の育成」、「潮風の中でたくましく生きる心と体の育成」、「ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり」の3点を学校経営の重点目標に定め取り組んできた。上記のように、評価はいずれもBと判断した。教職員の個々の自己評価を分析すると、A評価の教職員もいたが、3つの重点目標ともB評価の教職員が圧倒的に多かった。昨年度はC評価の判断をする教職員もいたが、今年度の取り組みによって昨年度よりも学校経営が改善されてきたように思われる。しかし、3つの重点目標ともB評価以上だったものの、細部についてはまだまだ課題も多く、来年度はより一層の改善をめざし取り組んでいきたい。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

(様式5)

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
1. わかる授業の創造と授業力の改善	○一昨年度より中部小学校教育研究会の算数科の研究指定（3年間）を受け、教職員が一丸となって授業改善に取り組むことができた。研究発表会に向けて公開授業と研究会を積み重ねることによって、算数科の授業についての共通認識が深まり、全体的に授業力が向上してきている。しかし、教職員によっては力量に差が見られ、特に若年教職員に対する育成指導が必要である。来年度は子どもの生活面と学習面の実態を把握し、児童にとって「わかる授業」を創意工夫していきたい。 ○来年度は研究教科が国語に変わるため、国語科を通して子どもたちにつけたい力を全教職員が共通理解し、授業実践を積み上げて教職員個々の授業力を向上させていきたい。 ○児童の学力の定着と向上にとって家庭学習の習慣化は欠かせない。一昨年度から実施している「家庭学習がんばりカード」の取り組みを継続し、習慣化につなげたい。また、朝読書の時間を充実させるとともに、図書館の利用も促進し、読書の習慣化を図りたい。
2. 潮風の中でたくましい心と体の育成	○基本的な生活習慣の定着に向けて、学校教育の様々な教育活動の中で適宜指導をしていきたい。昨年度から生活目標として月目標を設定し、目標設定とその取り組みの意義を子どもたちに説明し取り組んだことは効果的だったと思われる。来年度も取り組みを継続していきたい。さらには、学校だよりや学級だよりを通して基本的な生活習慣を身につけることの意義を随時、保護者に伝え協力をお願いしたい。 ○教育活動の中でも特に、道徳教育と人権教育と特別支援教育については今年度の取組状況の振り返りを行い、来年度につなげていきたい。言葉づかいについては昨年度より改善されてきたが、教師がいない場面ではまだ不十分であり、来年度もねばり強く指導を継続し、思いやり豊かな心を持った児童を育成したい。一昨年度から行っている全校人権集会は有意義な取り組みであり継続していきたい。 ○潮風タイム（業間運動）の取り組みは教職員の共通理解もできたので、一層充実した時間にしていきたい。さらには、体育の授業を通して体力の向上を図りたい。 ○食育については昨年度以上に実践してきたが、健康な体づくりの大切さを児童たちに意識づけるような取り組みを継続していきたい。
3. ふるさとを愛する児童の育成と開かれた学校づくり	○総合的な学習の時間を活用し、体験的な活動を積極的に取り入れ、地域に誇りと愛着を持つ児童の育成をめざしたい。 ○地域の公共施設や地域人材の活用に関しては、学年によって取り組みに不十分さがあったので、積極的に活用し、地域の特色を生かした教育活動を展開したい。 ○学校だより、学級だより、ホームページ等を活用し、学校の教育活動を積極的に情報発信し、地域に開かれた学校づくりを推進したい。